

## 令和 8 年度 第 1 回 瑞浪市窯業技術研究所運営委員会 会議録

日 時：令和 8 年 4 月 1 6 日 午前 1 0 時から

場 所：瑞浪市産業振興センター 3 階 大会議室

出席者：委 員 松崎英之(委員長)、川本禎行、伊藤弘典、堀 辰彦、加知良浩、澤井佐也子、恩田陽子  
市 長 水野光二

事務局 足立寛聡(商工観光課長兼窯業技術研究所長)、安齋久嗣(所長補佐兼技術開発係長)  
大野万里子(所長補佐兼管理係長)

欠席者：委 員 平子照雄、加藤明代、手島 敦

## 開 会

## 【事務局】

それでは、皆様おはようございます。定刻となりましたので、ただ今より令和 8 年度第 1 回窯業技術研究所運営委員会を始めさせていただきます。本日の会議の成立につきまして、運営委員会の委員 1 0 名のうち、本日 7 名のご出席をいただいております。過半数の出席ということになりますので、運営委員会規則第 4 条第 2 項の規定により成立していることをご報告させていただきます。本運営委員会は公開の対象となっておりますので後方に傍聴席を設けております。あらかじめご了承ください。

申し遅れましたが、私は本日の進行を務めさせていただきます窯業技術研究所長の足立といたします。よろしく願いいたします。それではお手元の資料の確認をさせていただきます。本日の運営委員会の次第、運営委員名簿、次に、右上に資料の 1、2、3 と書いてある文書、続いてカラー刷りの別紙資料①②③でございます。また別途、カラー刷りの食器の写真がございます資料と窯業研究所の紹介という資料を付け加えさせていただきましたのでよろしくお願いいたします。

本年度につきましては 2 年任期であります運営委員の最初の年となります。今回新しく 5 名の方に委員をお受けいただきまして、合計 1 0 名の委員でこの運営委員会を 2 年間、運営していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。なお委嘱状はあらかじめ机の上にお配りさせていただきましたのでご確認をお願いいたします。また運営委員の皆様には後で自己紹介をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。はじめに水野市長よりご挨拶をお願いいたします。

## 1. 市長あいさつ

## 【水野市長】

皆さんおはようございます。今日は朝の早い時間でございますけれども、令和 8 年度第 1 回窯業技術研究所の運営委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。新しく 5 名の運営委員さんをお迎えしての初回ということで、委嘱状を交付させていただきました。4 月 1 日から令和 1 0 年 3 月 3 1 日までの 2 年間という任期ではございますが、窯業技術研究所が地域の地場産業の事業者の皆さんに対して有意義な機関として運営できますように、それぞれの立場でご助言をいただければ大変ありがたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

後ほど詳しい説明があるかと思いますが、窯業技術研究所の取り組みを少し私からご紹介させていただきます。まずは企業さんからの試作、試験ですが、年間で 3 5 0 件ほどの依頼をいただいております。ま

た、他の機関に先駆けて導入しました3Dシステムを使った試作は年間で100点ほどの依頼をいただいております。現在、この3Dシステムが4基、稼動している状況でございます。

そして将来の人材を育成するために、第30回になりました児童生徒食器デザイン展を毎年開催しております。これは市内の児童生徒の方々から2000点を超える、素晴らしいデザインを応募いただきまして、それを審査して市長賞はじめ、優秀なデザインに関しては表彰させていただいております。特に市長賞になった作品に関しましては、市内の学校給食食器のデザインに採用して、子供たちに使っていただいております。

それと新しい取り組みといたしまして、昨年度報告させていただきました「MINO サステナブルセラミックプロジェクト」という不要食器を回収したり、食器セルベンを資源循環して新しい原料として新製品の原料として活用するという取り組みを進めています。現在、この組織を法人化するために準備委員会を立ち上げて一般社団法人化に向けて準備を進めております。

地場産業であります陶磁器は約1400年の歴史があるわけですが、今までは品質やデザイン、そして価格で競争をしてきました。原料も天然資源を掘り出しておりますし、また製造する過程においても二酸化炭素を排出して製品を作っています。そして不要になった食器は廃棄物として地中に埋められています。自然に戻ることはありません。今の世の中はサステナブルな時代になってきておりますので、陶磁器業界といたしましても自然を破壊して大気を汚しては評価されませんので、業界が率先して陶磁器くずを再資源化して新しい製品を生み出す取り組みをしていかないと世界の流れから取り残されてしまうと思います。そういう考え方に対応するためにもサステナブルな取り組みをしていかなくてはならないということで陶磁器業界が取り組んでおります。30年ほど前から「グリーンライフ21」というプロジェクトで陶磁器くずを再資源化しようという取り組みが始まっていますが、不要食器を回収する方法ですとか、リサイクル原料ということでバージン原料の商品と比べるとコストが高くなってしまいう現実もありまして、しっかりとした事業化が成り立っていない部分もあります。

最近、そういうサステナブルな商品を高くても買わなくちゃいけないというユーザーも増えてきておりますので、事業として収益を上げられるようなシステムにしていくために、まずはこの取り組みを行う団体を法人化して一般社団法人として、国とか県などから様々な支援を受けやすくする中で、国に対して法律も変えていただかないといけない部分もありますので、環境省の方へ要望活動をしたり、完成した商品を流通関係の企業さんに優先的に買い求めていただけるような運動をしていかないといけないと思います。このような動きが始まろうとしているということをご理解いただいて、ご支援をいただければありがたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

本運営委員会は窯業技術研究所の附属機関という位置付けでございます。2年間という期間でございますが、運営委員の皆様のお力をお借りして、業界の皆様にとって利便性の高い窯業技術研究所となるようにご意見ご指導いただければと思っておりますのでよろしく願いいたします。

#### 【事務局】

ありがとうございます。続きまして委員長を選任に入ります前に、皆様の自己紹介を簡単に結構ですので名簿順でお願いしたいと思います。最初に松崎委員から順番にお願いいたします。

#### 【松崎委員】

皆さん、こんにちは。松崎と申します。深山という製造メーカーを経営しております。ここには瑞浪陶磁器工業協同組合の理事長という立場で参加しております。よろしく願いいたします。

## 【川本委員】

川本と申します。陶町の有限会社ユーポーセレンという会社の社長をしています。恵那陶磁器工業協同組合理事長という立場で参加させていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 【伊藤委員】

おはようございます。私も陶町で、有限会社ワイ・イトウという会社を経営しています。北は北海道、南は沖縄まで、大体 7,000 カ所の保育園のオリジナル食器を作って配送することが本業です。その傍ら教育に関連する「音育」ということで鑄込み成形のオリジナルのオカリナを作っています。その開発で窯業技術研究所には多岐に渡りお世話になりました。商品化されてプロのオカリナ奏者の方からも公認を受けアンバサダーとしてついでいただいています。「美濃焼のオカリナ」というかたちで楽器として高品質なものができるようになったのは、窯業技術研究所のおかげです。2 年間よろしくお願いいたします。

## 【堀委員】

陶町で石膏型を作っている有限会社堀製型所の代表の堀辰彦です。よろしくお願いいたします。圧力鑄込みと自動成形機にかける回転体の石膏型を原型から荷口型まで製造しております。私が原型を作っておりますが、複雑なレリーフとか、精密なスタックみたいなものは苦手なので、そういうものは窯業技術研究所に依頼して、3D 切削加工機で削って原型を作ってくださいしております。よろしくお願いいたします。

## 【加知委員】

こんにちは。カネー陶料有限会社の加知と申します。私は稲津町で陶磁器の坏土を製造させていただいています。主に食器用の土をメインに作ってまして、焼成品のスポーリング試験ですとか、そういったことで窯業技術研究所にはお世話になっています。2 年間でございますがよろしくお願いいたします。

## 【澤井委員】

こんにちは。MT・ファクトリー有限会社の澤井と申します。稲津町で圧力鑄込み成形をしております。私は今日、この場に初めて来たのですごく緊張しておりましたが、顔見知りの委員さんが居たので、ちょっとほっとしております。よろしくお願いいたします。

## 【恩田委員】

恩田と申します。稲津町で作家をしております。陶磁器業界の中で一番ミニマムな仕事の形態ですけども、やはり業界が元気になって、子供たちがすくすくと成長するには、自分の地元が元気であって欲しいと思いますので、何か少しでも役に立てればと思って参加しました。よろしくお願いいたします。

## 【事務局】

ありがとうございました。名簿にございます運営委員の皆様のうち、瑞浪陶磁器卸商業協同組合の理事長の平子様、ひまわり工房代表の加藤様、多治見工業高等学校の手島先生につきましては本日所用のためご欠席ということですがご紹介だけさせていただきます。

## 2. 委員長の選任について

## 【事務局】

それでは次に次第の 2 の委員長の選任についてでございます。今回はじめですので、あらかじめ事務局

から案をご提案させていただきます。

委員長には瑞浪陶磁器工業協同組合の理事長の松崎委員、また副委員長には恵那陶磁器工業協同組合の理事長の川本委員にそれぞれ役員をお願いしようと思っておりますけれども、皆様よろしいでしょうか。

異議なし。拍手

ありがとうございます。拍手多数と認め、委員長を松崎委員をお願いいたします。副委員長を川本委員をお願いいたします。

### 3. 議題

#### 【事務局】

それでは議事に移りたいと思います。議事の進行につきましては規則により松崎委員長に議長を務めていただきますので、よろしくをお願いいたします。

#### 【議長】

それでは議長を務めさせていただきます。皆様ご協力よろしくをお願いいたします。

これより議事に入りたいと思います。「議題（1）令和7年度事業報告について」事務局より説明をお願いいたします。

#### 【事務局】

それでは、令和7年度事業報告についてご説明いたします。

（資料1に沿って説明）

#### 【議長】

ご説明ありがとうございます。それでは令和7年度事業報告につきまして、ご意見がある方は挙手にてお願いします。

#### 【委員】

はい。ちょっと無理かもしれませんが、もう少し依頼試作の納期を早めにしていただければありがたいです。特に市内の事業者を優先でお願いします。

#### 【議長】

ちなみに今、試作を依頼するとどれぐらい時間がかかりますか。

#### 【事務局】

今ですとそんなに依頼が混み合っていないので2週間から3週間です。2月や8月は閑散期ですがけれども、見本市前になると依頼が集中してくるという印象はあります。

#### 【議長】

その他ご意見いかがでしょう。

## 【委員】

陶磁器セミナーで、食器セルベンを使って釉薬の調合をして試作を行い検証しましたということです。詳しく教えていただきたいです。例えばこういう結果が出ましたとか。

## 【事務局】

食器セルベンは今までリサイクル原料として粘土に混ぜて使ってきましたが、釉薬に使えるかというテーマで開催しました。できるだけ粉碎した原料をたくさん使いたいということで何%まで調合できるかテストをしました。結果として釉薬に30%ぐらいまで混ぜて使えることがわかりました。小さいテストピースですがセミマットの感じになりました。

## 【委員】

それは普通の透明釉の食器を粉碎したセルベンを使われたという事でしょうか。色釉の食器のセルベンも使いましたか。

## 【事務局】

顔料も混ぜて、色釉もテストしました。

## 【委員】

全部混ぜて30%ぐらい使えるということですか。

## 【事務局】

そうです。長石の代替品という考えで調合しました。焼成は研究所の電気炉で1240℃から1250℃ぐらいで行いました。食器セルベンは県のセラミックス研究所で成分分析したら、長石と同じ成分構成ということでしたので、長石の代わりに使えるのではという考えで配合を試みました。

## 【議長】

ちなみにその食器セルベンを使った釉薬は、艶があったのか、マットだったのでしょうか。

## 【事務局】

艶があるのは難しいようで、やはりマットになりました。

## 【議長】

30%配合だと、膨張収縮の関係もありますね。

## 【事務局】

テストピースは上手くいきましたが、工業製品に使えるかは難しい点もあると思います。

## 【委員】

試験依頼ですが、窯業技術研究所には成分分析の分析機が無いので、土岐とか多治見の試験機関に依頼しているので、窯業技術研究所にあるとありがたいと思います。高額な機械なのですぐに導入は難しいとは思いますが、近くで依頼できて、すぐに結果がわかるようになったらと思いますので、ご検討いただけ

たらありがたいです。

【市長】

以前はその試験をしていて、業務を見直してやらなくなったのか、それとも今までやったことは無い試験なのか。

【事務局】

今まで、やってきたことは無い試験です。

【市長】

必要性があれば導入して対応できるようにしてもいいのでは。どれくらいの予算がかかるのか。

【事務局】

1千万円くらいだと思います。また、分析技術のノウハウも必要で、誰でもできるというわけではありません。

【市長】

研究所的には厳しいということだが、業界の方々がどうしてもそれが必要だということなら、せっかくだので検討してみてください。

【委員】

他の試験機関に依頼すると、試験費用は高くなりますか。

【委員】

そうです。土岐市の試験機関に依頼すると、1.5倍の料金になります。

【委員】

それでしたら何とか費用面での補助など、もう少し助けていただければと思います。

【議長】

ちなみに県セラミックス研究所にもありますか。

【委員】

県セラミックス研究所にもありますが、多治見市なので距離が問題です。

【議長】

そうですね。数百円の違いで多治見市まで行くかっていうことですよね。費用対効果もありますし。

その他ご意見が無いようでしたら、議題（1）令和7年度事業報告につきまして承認を取りたいと思います。ご承認いただける方は拍手をお願いします。（拍手）

ありがとうございます。拍手多数により本議題は承認されました。

続きまして、「議題（2）令和8年度事業計画」について事務局より報告をお願いします。

【事務局】

それでは、令和 8 年度事業計画についてご説明いたします。

(資料 2 に沿って説明)

【議長】

この議題につきましても皆さんにご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

【委員】

例年と比べて何か新しい取り組みはありますか。

【事務局】

内容としましては大きく変わりませんが、「ものづくり研究会」については、これまで新春見本市に向けて試作の方を進めていたのですが、今年度は秋の美濃焼新作展をゴールにしたいと思っております、例年よりも早まるスケジュールになっております。

産業技術連携推進会議セラミックス分科会の中のデザイン担当者会議という全国の陶磁器の試験研究機関が集まる会議が今年度は茨城でありまして、食器セルペンを使った試作を作り、研究発表をしたいと考えております。

【市長】

それは、今のサスティナブルセラミックプロジェクトの関連事業としてですか。

【事務局】

関連事業では無いのですが、今、美濃焼の産地にそういった動きがあるという事を試作物として展示発表したいと考えています。

【市長】

できたらやっぱり多少関連してもらって、1つのプロジェクトの中に入れてもらえた方が良いので、情報共有ぐらいは最低でもしておいていただきたいと思います。あっちこっちで様々な取り組みを進めるのでは無しに、最終的には1つに集約していかないと、リサイクル品を製品化していくというゴールですから。先ほどのセルペンを使った釉薬の研究も、サスティナブルプロジェクトの方にも情報提供していただきたいと思います。

【事務局】

わかりました。

【議長】

その他ご意見が無いようでしたら、議題(2) 令和 8 年度事業計画につきまして採決を取りたいと思います。ご承認いただける方は拍手をお願いします。(拍手)

ありがとうございます。拍手多数により本議題は承認されました。

皆様のご協力によって、この二つの議題について承認いただきました。感謝を申し上げます。

#### 4. その他

##### 【事務局】

松崎委員長さんには議長ということでここまでになります。スムーズな進行ありがとうございました。

議事とは関係ありませんが、お手元にありますペットボトルの水は、瑞浪市観光協会が昨年度作られました市のPRの水ということで用意させていただきました。瑞浪市観光協会で販売しておりますので会議などでご活用いただければと思います。その他よろしいでしょうか。

##### 【委員】

せっかくですので、今の業界のことで、少し皆様のご意見を頂戴できればと思いますのでお話をさせていただきます。

窯業技術研究所はCAD・CAM試作を要望される方が一番多いのかなと思います。依頼件数も多いので。これについては、切削機の台数が増えるのか、機械が良くなるのか、職員が増えるのかわかりませんが、是非、能力アップをお願いしたいと思っております。

それから業界の中では、石膏型やケース型の廃棄が結構問題になっていて、使い古した石膏型を処分しなくてはならないのですけれども、基本的には工業組合で下石町にある茂利明商工で処分していただいています。聞くところによると瀬戸にも引き取っていただける所があると聞いております。ケース型は1年に2週間しか引き取ってくれないのですけれども、去年は3日で結構な量になったので、それ以上は受けつけないということになりました。美濃焼の産地の中で石膏型もそうですけれども、ケース型がかなり処分を待っているのが多いのかなというふうに思います。これは瑞浪の組合だけで取り組もうとするとなかなか難しい課題になってくる事なので、気に留めておく必要があると思っております。

それから今、燃料費がすごく高くなってきていて、値上がり幅が大きくて3月比で27円値上がりしました。月に100トン使うと、27円の値上げで270万円になります。同じ製造量で同じことやっても、270万円余計に払わなくてはいけないということになるので、ガス代は相当厳しい状況になっています。使用量が多い少ないもありますが、少ないと少ないなりに値上げされてしまうので、例えば作家さんであっても、ある程度の負担は同様だと思います。量産メーカーからすると来月はおそらくもっと上がると思います。

石油由来のものでいうと、パット印刷のインクがもう無いという話があったり、その他いろいろな備品が手に入らなかつたり高いという話を聞いています。

##### 【市長】

そこは行政で対応しなければならぬ点もありますが、国の方もガソリンに対して170円ぐらいにするように備蓄を開放したり、予算を付けてコストが上がらないよう手当を検討するなど、我々のところに伝わってきていますが、その他の製品とかいろいろな物に対しての具体的な情報はきていません。今、ナフサ不足で住宅設備や入浴施設も作れないと聞いて驚いています。

国の方も供給するとは言っていますけれども、手探りの状態で動いていますので、我々も商工会議所としっかり連携して、いろいろな現状を国に訴えています。具体的な支援策をいただきながら、県と市等で連携して支援が早くできるように少しちょっとお時間をいただきたいという状況です。

それと、重油はあまり業界の方は使っていないですか。

##### 【委員】

今はメーカー的にはそんなに多くはないと思います。重油に関しては、どうしても必要な公共施設とかの方に重点を置いて出す代わりに、ゴルフ場の風呂は止まってきているという話は聞いています。

#### 【市長】

給食センターは重油を使っているのですが、入札で不調に終わったら仕入れられないことになってしまうので、業界の方をお願いして、給食は提供していかなとけないので最優先でまわしてくださいと直交渉しまして、優先的に重油を分けていただくことになりました。

本当に、いろいろなところに思いがけない影響があるということを改めて再認識しました。早く国も対策を打って欲しいのですが、恵那市は業界の方に集まっていただいて、現状の意見集約をしてみえます。瑞浪市でも、そういう生々しい現状を国に伝えていかなければならないと思っていますので、お話を参考にさせていただきたいと思っています。

#### 【委員】

これは自社の実体験ですが、圧力鋳込み成形をやっていますが人に負荷がすごくかかります。他にもいろいろ製造工程はあるのですが、多少なりともマンパワーに頼らない製法ができないものかと思います。大きな費用かけて機械を導入すれば解決もできるかもしれませんが、そこまで設備投資ができない状況なので、少しでも省力化できるというか、人を助けられるような何か良い方法が研究所を通じてヒントを得られればと思います。従業員を募集しても、なかなか人が集まらなくなってきているので、人に負荷をかける昭和の作り方とか製造方法はいつまでも続かないのではと思っています。

市長からも、お話がありましたがMSCPとかGL21などの環境に良い取り組みをやろうとすると、バックグラウンドが大きい企業は、なかなか苦しいところが正直あると思います。大企業なら、いきなり太陽光パネルをバーツと敷いて、環境に良いものづくりができるのですが、小さい企業はそんなに資本投資が出来ないので、突っ込みすぎるとそんなに儲けが無い話になってしまいます。ですから少しずつやれるところはやっていく、今進んでいる方向に情報を得ながらやっていければいいのかなと思います。

市内で結構作家活動している方がたくさんいるので、披露できる場や機会があったらいいなと思っています。それはネット上でもリアルでもいいのですが、活動されていることを意外と知らないなので、何か良い方法はないかと思います。というのは、製造メーカーも大量に製造するのでは無く、もう作家さんとの狭間の、お互いがオーバーラップしているようなところもあります。作家さんから依頼を受けて製造することもあるので、作家さんのことを知りたいところです。

#### 【事務局】

現在、窯業技術研究所とメールでお知らせ等をやり取りさせていただいている作家さんが約30人いるのですが、皆さんそれぞれで活動されているので、瑞浪市内にこれだけ作家さんが居るといのは、なかなか認知されていないと思います。何かのタイミングで作家さんをお披露目できるような場所なり、機会なりがあれば良いと思っています。

#### 【市長】

大きく言えば国際陶磁器フェスティバルに参加していただければ、すごいことになるのですけれども、30名の作家さんの発表の場というか、何かの機会にそういうコーナーを設けてもいいのかもしれない。

## 【委員】

国際陶磁器フェスティバルは作家さんとしては登竜門ですが、エントリーしない方もいますので、なかなか全員というわけにはいかないかもしれません。

## 【事務局】

土岐市だと、イオンの店舗内に地元の作家さんの食器を扱っているコーナーがあります。

## 【市長】

瑞浪だと「ちゃわん屋みずなみ」で作家さんコーナーがあったと思います。

化石公園で「彩りマーケット」とかを市の補助金を活用して開催している方には作家さんの情報がいつているのですかね。出店するのに出店料がかかると思うけれども。私も必ず見に行くのですが、陶磁器の他にいろいろなクラフト商品が並べてあって、多い時だと100店舗ぐらい出店する規模のイベントになっているので、情報提供させていただいてもいいのかなと思います。

大きく言えば、セラミッククラフトキャンプですが、セラミックパークで開催しましたけれども、ああいうのにも参加していただくとか。もう少し小さな規模でいいから、作家さんが自分の作品を披露できる機会を市の方でも考えさせてもらいたいと思っています。

## 【事務局】

そういうイベントがありますという連絡は特にしていませんが、情報提供はすぐにできると思います。

## 【市長】

今はパンフレットや印刷物を作らないでも、すぐに情報発信できるので、まずは商工観光課と連携して、瑞浪市内の情報だけでは無く、いろいろな情報集めて作家さんに情報提供するのは良いかもしれません。

## 【事務局】

あと「ちゃわん屋みずなみ」の方で、もう少し作家さんを取り上げていただいて情報発信していただければ、市内作家さんの作品が常時見られる施設になるかと思っています。

## 【委員】

作家さんもそれぞれ発表の場がありますので、皆さんが喜んで活用されるかどうかは、いろいろ意見はあるかと思っています。例えばアーティストインレジデンスで市内の空き店舗を活用するとか、いろいろあるような気がします。せっかくこういう地場産業で条件が整っているのに、作家活動される方が増えるといいなと思います。

## 【委員】

よく聞くのは作業場が意外と瑞浪市には無いと聞きます。若い方が焼き物を勉強して社会に出るのですけれども、メーカーとかで勤めながらでもやっぱり自分の作業場が欲しいっていう子が多いのですけれども、瑞浪はそういうところが無いという意見はよく聞きます。

無理な話かもしれませんが、ここの設備で貸工房みたいなことができたらすごい良いのにと個人的に思

ったことがあります。

【市長】

以前、焼成炉がなくて瀬戸の方まで自分の作品を焼成に行っているというような話がありまして、振興センターに24時間使える電気炉を設置しました。作陶する場所については、振興センターの作陶室は使われているのですか。

【事務局】

指定管理が管理しているので一時的な作業はできますが、常時作業はできません。イベントや小中学生が施設見学に来た時の絵付け体験などで使用しています。定期的に利用しているサークルが1つあると聞いています。

【委員】

一時的な作業としては、私は釉薬をつくるのにすごく借りていまして、焼成もさせていただくこともあります。

【市長】

空いている倉庫や店舗などを作家さんに貸せないか。

【事務局】

そうですね、確かに今も作家さんご夫婦から空き家を探して欲しいという依頼を受けています。市内の企業さんにもお聞きして、陶の空き家バンクとか釜戸の空き家対策委員会の方にちょっと相談しているのですが、なかなか貸してくれる方が少ないです。

【委員】

今、陶の空き家対策グループには情報流しています。連絡は今インスタグラムの方で多分連絡がきているので、そこで連絡を取り合っています。

【事務局】

ただ、貸すってところが難しい。売りたいって人は多いですけど、貸したいって人は少ないです。

【委員】

先程ちょっと言っておられましたけれども、作家もいろいろおりまして、例えば瑞浪で皆で一緒になってという意識がまず無いです。私もこの年になって、そういうのも必要じゃないかと思い始めて、積極的にこういう場にも出ているのですが、そういう意識づくりをどうやったらいいかなってというのが課題だなんて思います。

あと、私が個人的にいただいたご縁は、作品をふるさと納税の返礼品として紹介する機会を窯業技術研究所からいただいて、商社さんが行っているのですけれども、瑞浪の作家ってということで売っていただいているので、それは大変ありがたかったです。

## 【事務局】

商社さんから作家さんに声掛けをお願いして欲しいということで、30名の市内の作家に、ふるさと納税の返礼品に参加してみないかっていうことで、声掛けをしました。来週の22日に説明会を予定しています。

## 【市長】

是非やってあげてください。

## 【事務局】

返礼品の数は、かなりありますか。

## 【委員】

思っていたよりはあります。瑞浪市内の手づくりで制作している作家として紹介された食器が、多分すごく少なくて、私は最初の方だったこともあって、すごく好評いただいている、ありがたいです。

## 【市長】

有料のギャラリーなどを借りて自分で個展を開く作家さんっていうのは多いのですか。それとも、そういう場所を作家さんは求めているのですか。

## 【委員】

現実的なことを言うと、売れるギャラリーは都会だったり、そういう場所とか、立地とかも関係します。どこでもいいから空いている貸しギャラリーがあってそこでやってみようっていうのは、そういう挑戦もあっていいと思うのですが、利益のことを考えると、どうなのかなというのがあります。

## 【市長】

いい場所だったら高いですね。でも、町外れだと来てくれないし。

## 【恩田委員】

ただやっぱりこの町で作っているということ、例えば駅の近くとか、人がすごく通る必ず目に触れる所で紹介ができれば良いことだと思います。

## 【市長】

参考にさせていただきます。

## 【事務局】

駅前Mビルとかに、作家コーナーみたいなものがあるといいなと思います。

## 【委員】

玄関口なのでね、絶対そういう焼き物の売り場があるといいなと思います。作家さん向けだったらやっぱり多治見のアートギャラリー「THE GROUND MINO」のように、民間の資本力が大事だと思います。瑞浪に進出していただければ良いなと思います。

【市長】

大変参考になりました。

【委員】

先程、話があったのですが、人手不足とか、効率を図るといのがこれから、ものすごい重要な時期に来ていると思います。それこそ今年の新春見本市に行った時に 3D プリンターがあって、これで原型を作って、型を作ってみたいな展示があったのですが、もうこれで即鑄込める型が作れるんだって思いながら見てたりしたのですけれども、各研究機関の、そういう少しでも工程を減らす、作業効率を上げるための情報を収集して、それを公表するようなどころがあると嬉しいです。そもそもそういうアイデアや概念が無いので、そういう情報収集を是非してもらって、ホームページですとか、リーフレットとかで紹介してくれると新しい挑戦をし易いかと思うので、ぜひ今年 1 年の活動の中で、そういう情報収集していただけるとありがたいなと思います。

【事務局】

研究所の方にも情報がいろいろ集まってくるところもありますし、各研究機関と顔を合わせる場もありますので、皆様にお伝えすべきところはできるだけ出していきなと思っております。

【委員】

九州では切削機で、いきなり捨て型を削り出して、いわゆるケース型を作らないで、型のデータをつかって、いきなり型を作っていて、まだまだ活用の違いがあるなという気がします。さっきのケース型の廃棄問題の助けにもなるのですけれど、型屋さんにとっては、仕事が機械に奪われてしまうという点もある。

【委員】

型屋もだんだん減っていますので、そちらに移行できればそれでも良いです。

【委員】

型屋さんでそれができるようになったら、多分、収益性が良くなると思います。

【委員】

話が戻るのですが、廃石膏型や石膏くずの埋め立て処分が、昨年末に突然ストップされて、すごく皆さん困っています。今は茂利明商工でリサイクルという形で持ち込む 1 つの手段しかない状況です。

石膏型は、水の流れがあれば溶けて無くなってしまうそうです。粒子が丸いものらしいので害は無いと聞いていますが、何か下水処理場みたいなそういう施設とかで、溶かして無くす方法などの研究をしていただけると、とても助かります。

【市長】

最終処分場の残余年数がどんどん減ってきてまして、いずれ満杯になってしまいます。そうすると、新たな廃棄物は引き受けられなくなりますから、何とか調整していただいて、少しでも廃棄物の排出を減らしていただいて、今ある大切な処分場を延命しようということで、対応させていただいています。

石膏型が水で溶けるとはどういう事なのでしょう。

【委員】

例えば水道の蛇口から水をポタポタ落とす程度で、結構早い時間で穴があいて溶けてしまいます。

【市長】

研究とか調べることは窯業技術研究所の方でできるかと思うけれども、市が石膏型を溶かすとかそういう作業をすることを引き受けることはできない。

【委員】

これは技術的なことにはなると思う。本当に水の流れて消えて無くなるわけではないので、石膏は沈殿するから水はわりと綺麗に見えるということだと思います。石膏型には針金や樹脂が入っていることもあるので、実際に川に流すわけにはいかないとします。ただ、そういう施設があれば可能かもしれませんが、費用対効果が問題です。

【委員】

セメントの材料として再利用はされているようですが、受け入れ施設が、ちょっと受け入れにムラがあって、向こうの都合で休んだり、何か少しでも異物とか混ざっていると、すぐに組合に苦情の連絡が来たりします。

【委員】

あまり儲からないので、重機を新しくできないとか、いろいろ設備上の課題もあったり、社員教育も十分なされていないので、受け入れを止めたり、対応が悪かったりっていうことは、あると思います。やはり儲からないので、値段を上げるしか策はないと思っています。

【委員】

どういう処分方法ですか。石膏を燃やして処分することはできないのですか。

【委員】

そのことを含めて、何か別の処分方法を研究していただければと。

【事務局】

燃やすにしても、今は燃料が高騰していることもあり、燃やすという選択肢は無いのでは。一番経費がかからなくて儲かる方法が先程言われたコンクリートの材料にするのが一番いいということでしょうか。

【市長】

市の焼却灰もコンクリートの原料にしています。焼却場で燃やすと灰が残りますので、それをレンガメーカーとかコンクリートメーカーに供給して、骨材として混ぜて使っていますが限界があります。どうしても、そういうコンクリートメーカーが引き取ってくれなければ、処分場へ埋めることになります。

なかなか新たな処分場の建設を受け入れてくれる地域が無いので、今の処分場は、増設を繰り返してきたのですが、これ以上拡張するわけにはいかないので、今、大事に使っています。

こういう環境に厳しい時代ですので、地域や市民の皆さんの意識が高いですから、そういう迷惑施設は

うちの町に作ってくれちゃ困るということで、新しい最終処分場を建設する場所が見つからないというのが現状です。

【委員】

大量生産大量消費時代の時は、石膏型を受け入れて再利用できたでしょうし、白い磁器物の不良品もすごい出ていたのですが、そのまま引き取ってくれる業者がいました。もう今は大量生産大量消費の時代じゃないので、そういったものの2次利用の需要が無いということもあると思います。置き場に廃石膏型を粉砕したものがたくさんあるけれど、それが2次利用で出ていかないと、廃石膏型を新たに粉砕できないし、新たに受け入れが出来ない、そんな悪循環な状況だと思います。

【事務局】

ありがとうございました。それでは本日のご報告させていただきましたことにつきましては、申し訳ございませんが各組合の理事長さんには組合員の方にもお知らせいただければと思っております。

以上をもちまして令和8年度第1回窯業技術研究所運営委員会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

この後、窯業技術研究所の施設のご案内をいたしますので、お時間のある方はご見学ください。